

MAENAN SAH Journal Vol.12

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Sep. 14th, 2023

令和5年度より、群馬県教育委員会から『SAH (Student Agency High School)』の指定を受け、『自ら考え、判断し、行動できる生徒』の育成を目指します。『予測困難な時代』のなかで『生きる力』を育むため、『認知能力』に加え、『非認知能力』の育成に取り組みます。
*Agency・・・自分の人生および周りの世界に対して、よい方向に影響を与える能力や意思を持つこと

『図書委員会』による『SAHを視野に入れた取り組み』

『SAH (Student Agency High School)』の最上位目標である『自ら考え、判断し、行動できる生徒』のよい事例となる事業が、またもや実施されましたので、ご報告いたします！うれしい限りです！

★図書館廊下のガラスケース展示 「有名人が書いた本」「YouTuber が書いた本」

有名人が書いた人気の本を収集することで、普段あまり図書館に来ない人に興味をもってもらおうと『図書委員会の生徒』が考案しました。公共図書館の相互貸借を最大限利用して資料を収集し、当館の本も合わせて生徒自ら本を選定し、工夫して展示を行いました。



★特別コーナー展示 「植木さんの本棚」



入学当初からよく図書館を利用する読書好きな図書委員である2年2組の植木直(まなみ)さんに、特別コーナーの作成を依頼しました。とても楽しそうにお薦めの本をあっという間に並べ、POPも丁寧に作成してくれました。その後、本校での校内ビブリオバトル大会(決勝)の投票集計の時間を利用してご本人から図書委員全員に、特別コーナーの説明をしてもらいました。小さいコーナーながら、貸出率はとても高く、同世代の選書は最強でした。植木さんには二学期も継続的にコーナー作成してもらう予定です。



★クラス出張図書館(3-1)



勉強や部活が忙しい人でも教室に本があれば本を読んでもらえるのではないかと『図書委員さん』の発想から、クラスのロッカーの上に本を展示しました。勉強の参考にもなる読みやすい本を選定し、本の紹介文・表示板もすべて『図書委員さん』が作成しました。休み時間に手に取る生徒もいたようです。

★校内ビブリオバトル大会

7月7日(金)と12日(水)に校内ビブリオバトル大会(予選・決勝)を実施しました。図書委員の総務係(委員長・副委員長・書記)の6名が大会運営係を行い、大会開催に向けて準備・運営をできるだけ『生徒主体』で実施しました(企画係が校内に大会ポスターを掲示)。全校生徒に参加の呼びかけを行い、予選では有志が4名、図書委員の1・2年生16名が参加し、おすすめの本を自分の言葉でしっかり紹介し、普段見ることのできない生徒の表情をみることができました。決勝では各グループで勝ち上がった発表者がもう一度本の紹介をして、11月に行われる県大会に出場する生徒が決定しました。



<図書委員長(3年1組 遠藤吟次朗くん)より>

ビブリオバトルの開催に伴い、まず僕たちはポスターの制作に取りかかりました。委員会の皆が自主的に参加してくれたため、楽しく作業しながら進めることができました。今まで司会の経験もなく、大会は予選が昼休み、決勝は放課後に行われたので限られた短い時間の中でスムーズに大会の進行をするのは少し大変でしたが、バトラーの交替の仕方を工夫しながら司会として頑張ることができました。大会を無事に終えることができたのは大会参加者と一緒に準備・進行していた役員のおかげです。

<図書副委員長(2年2組 植木直さん)より>

司書さんから特別コーナーの展示を任された時、驚きと嬉しさでいっぱいでした。丁度、夏休み直前ということもあり、主に「青春恋愛系」とも呼ばれる作品を中心にコーナーを作成しました。このようなコーナーを自分で作るのは初めてで、多くの人に借りてもらえるか不安でしたが、予想以上に貸出率が高く、とても嬉しかったです。自分の「好き」をうまく伝えられることができる良い経験になりました。

今回発揮された『非認知能力』とは? 『図書委員会の自主的な活動』は、たくさんの『非認知能力』が発揮された事業であったと言えます。『図書委員会』の業務でも、他の業務でも、『定番』と呼ばれるものはあるはず。そして『定番業務』を行ってれば、『仕事をした』『十分働いた』という感想を抱いてもよいと思います。しかし、それでは、『おもしろくない』と感ずることがあるはず。『もうちょっとおもしろくしたい』『もうちょっと影響力を与えたい』、こんな想いから『工夫』が生まれます!

『教師』という仕事も同じです。『定番業務』を行ってれば、十分働いたことにはなりません。しかし、『生徒』の理解度を上げる工夫がもっとできるのであれば、改善したいと思うものです。『生徒』がもっと喜ぶのであれば…、『生徒』の高校生活がもっと充実するのであれば…、と『工夫を施したい』と思う先生はたくさんいらっしゃると思います。それが『教師のオリジナリティ』や『主体性』ということになるわけです! こういった『工夫』を『エージェンシー(主体性・当事者意識)』と呼ぶのです。

『認知能力』を代表する『学力(偏差値)』も大学入試等では重要ですが、今回のように『図書委員会』に発揮された『非認知能力』もたいへん重要であると思います。こういった『資質・能力』があれば、生徒のみなさんが『社会人』となったときに、『さまざまな工夫』を施し、『多くの方々に喜んでいただけるような取組』を実施できるのではないのでしょうか? 今回の図書委員会のみなさんのように、『主体的に工夫すること』が『自分たちの生活』を『ゆたか』にします。それが『生徒エージェンシー』です! 『自らの目的』や『みんなとの共通の目的』のために、『当事者意識』をもち、『Student Agency』を発揮してください! 文責: 星野 亨(教頭)

★校長より★

真っ先に言いたいのは、「図書委員会の皆さん、司書さん、頑張りましたね。」です。人は誰でも何かを任せられると嬉しいものです。図書委員長・副委員長さんの話にありますが、経験のない事への不安を感じたり、任せてもらった事に驚きと嬉しさを感じたりしながら、自分で考え仲間と協働しながら見事に成功させました。生徒の可能性を信じて声をかけた司書さんと、それに応えようと工夫した図書委員会の皆さんの「合わせ技一本」ですね。「また一つ、前南生の非認知能力見つけた。」次はどんな事が実践されるのか楽しみ楽しみ。

校長 関根 正弘